

会員と千葉県連盟をつなぐ

ちばニュース

2023年9月号



千葉県勤労者山岳連盟

Chiba Workers Alpine Federation

2023年 9月 1日発行 通巻365号

まだまだ続く暑さ…

夏バテせずに山を楽しもう…！

9月号目次

・ 目 次	2
・ 山行報告：白馬岳（松宮俊一：市川山の会）	3
・ 山行報告：御嶽山～ロックガーデン（矢野朝水：岳人あびこ）	6
・ 紀行文：スイス紀行（渡邊誠：松戸山の会）	9
・ 2023 事故防止・経験交流集会開催案内（教遭委員会）	12
・ 岳人あびこ「やまなみ19号」紹介	13
・ 委員会だより	14
・ 2023 オンライン講座を終えて	15
・ 9月・10月予定表	16

<閑話休題> 臨時役員会開催<8月3日（木）と24日（木）> p.5

個人情報があるので取り扱いには留意して下さい。

『山行報告』や『集会報告』などの投稿をお待ちしています！

その際の『書式』は、可能な限り次の通りでお願いします。

ワード、A4、横書き、MS 明朝、12 ポイント、余白：上下左右各 25mm
写真などを挿入しても、別にお送りいただいても結構です。

『表紙用写真』も募集しています！（写真説明を添えてください）

毎月 **20 日頃**を目処にメールでお送り願います。

<送付先> 機関誌委員会 廣木國昭委員長 danphiro@jcom.zaq.ne.jp
委員：安彦秀夫 mt25hm4abichan49@gmail.com

<表紙写真説明>

マッターホルン(4478m)の朝焼けです！（松戸山の会：渡邊誠さん提供）

初の海外旅行で、こんな素晴らしいマッターホルンに会えたことは、極めて貴重で、いつまでも心に残る思い出多い瞬間だったと思います。（海外旅行病みつきになるかも…？）
今回は、目的がハイキングではありませんでしたが、素晴らしい写真数枚の提供がありましたので、「もったいない、皆さんにも見て(知って)いただきたい…」との思いでお願いし、多くの写真を挿入した紀行報告文の投稿をしていただきました。

是非、スイスに思いを馳せながら読んでいただきたいと思います。そして、是非、皆さんも機会がありましたら、スイスに観光旅行そしてハイキングに出かけていただきたいと思います。きっと忘れられない思い出の1ページを飾れること間違いなしです。（編集子）

2023年夏山

高山植物と展望と大雪溪の北アルプス白馬岳山行記

市川山の会 松宮 俊一

7月28日（金）から2泊3日で北アルプス後立山連峰の白馬岳に登った。

参加者は男性7人、女性5人の12人。

3日間とも天気恵まれ、花盛り高山植物と大展望と雪溪を満喫した。

<1日目> 7月28日(金)

朝6時15分、東京駅北陸新幹線北改札口に集合。山小屋泊2泊3日の山旅のため荷物が
多い。今回は安全のためヘルメットの持参も推奨、自転車用も兼ねて新しく購入した方もい
た。東京駅発6時28分発のはくたか号で長野をめざす。大宮を過ぎると車内は満席に。8
時03分、予定通り長野駅到着。改札口を出てバス停に向かう。長野も日射しが強く暑い。
拇池高原行の増発バスに乗車。夏休みのせいか客が多い。長野冬季オリンピック時に建設さ
れた有料道路を特急バスは順調に走る。水量の多い犀川沿いから山間の集落を過ぎ、途中で
客を下ろして10時過ぎ拇池高原着。北アルプスの山々が夏雲の間から望める。早速ゴンド
ラに乗り、ロープウェイを乗り継いで拇池自然園前到着。標高は1900m近く、日差しは
強いが風は涼しい。

11時30分、準備体操を済ませ、ゲートから登山道に入る。山岳指導員の方から、ヘ
ルメットとアイゼンの持参を確認される。いきなり天狗原までの急登が続く。途中の日陰
で昼食を済ませしばらく登ると木道が伸びる天狗原に着いた。チングルマ、ミヤマダイコ
ンソウ、コイワカガミ、ミヤマリンドウなどの高山植物が美しい。しばし休憩。

ここから白馬乗鞍岳まで岩ゴロゴロの急登が続く。かつて白馬大池火山から噴出した安
山岩の巨岩が累積する登山道。所々にぽっかりと穴が空いている。落ちないように慎重に
歩を進める。

森林限界を超え、展望が開けてきた。遥か下方に天狗原が見える。小さな雪溪をキック
ステップで登ると、ハイマツの間に石楠花が見え隠れする白馬乗鞍岳の稜線だ。前方には
頂上を示すケルン、青い水をたたえた美しい白馬大池、今夜の宿「白馬大池山荘」の赤い
建物、そして白馬岳へ続く稜線が見える。ここまでくればあと少し、気持ちに余裕が出て
きた。岩が累積する登山道を下ると「白馬大池山荘」に着いた。池の畔にはハクサンイチ
ゲやミヤマアキノキリンソウが咲いていた。

受付を済ませ一服して外に出ると、ハクサンコザクラの群落がピンクの絨毯のように広
がり、イブキトラノオ、ハクサンボウフウなども群生していた。日が落ちた西の空が赤く
染まり、刻々と変化する美しい景色に、山に登れた幸せを感じた。

<2日目> 7月29日(土)

朝4時半起床。晴れ。今日の行程は短い。ゆっくりと朝食をいただき、準備体操をして6時30分出発。清々しい朝の空気の中、船越の頭への登山道を進む。道沿いには、ヨツバシオガマ、イワギキョウ、コマクサなどが咲いている。西側に目をやれば、残雪をまとう雪倉岳や朝日岳のなだらかな稜線が美しい。船越の頭で一服し、行先に聳える新潟県の最高峰小蓮華山をめざす。まだ白馬岳の頂は見えない。チングルマ、ウサギギク、イブキジャコウソウ、ミヤマアズマギク、次々と高山植物が姿を見せる。自生地が限られるウルップソウは、花期をやや過ぎていた。

小蓮華山に着く。前方に、信州側が急崖の非対称な白馬岳が、巨大な姿を現した。あと一息だ。巨大な鉄剣と風化した大日如来像が立つ。東側には、戸隠連峰、妙高山、火打山、雨飾山などが雲の上に浮かび、遥か下方には天狗原の木道が見えた。

三国境を過ぎ登り返すと白馬岳だ。急な岩場を一步一步慎重に登る。イワツバメが飛び交う。北側から見る白馬岳は、信州側の谷を飲み込むような迫力で聳えている。やっと頂上に着いた。多くの登山者が写真撮影を楽しんでいる。ガスも無く展望が素晴らしい。東には浅間山、八ヶ岳、富士山、南アルプス。西には黒部峡谷を挟んで、劔岳、立山連峰などが雲間から望め、遥か下方には白馬村や拇池高原の街なみが見える。

写真撮影と展望を楽しみ、今夜の宿「白馬山荘」をめざして下る。受け付けを済ませ、思い思いの場所で昼食。雲の上レストランで特製ランチと生ビールで乾杯。美味しい。午後からは、有志で近くに聳える旭岳周辺を散策。イワヒバリの番が餌を探している。南西側から見るなだらかな稜線の白馬岳、珍しいアングルだ。夕食後はレストランで交流会。久しぶりに盛り上がった。



<3日目> 7月30日(日)

朝4時起床。晴れ。ご来光を見るために白馬岳の稜線に登る。珍しいミヤマアケボノソウが咲いている。雲海に浮かぶ頸城山塊の上からオレンジの太陽が顔を出した。いつ見てもご来光は美しい。振り返るとハイマツの群落の中に雷鳥、天敵を避けるためにこんなに

朝早くから活動するのだ。太陽が劔岳・立山連峰の稜線を照らす。天を突く三角錘の劔岳が神々しい。近くの杓子岳、白馬鑓ヶ岳も朝日を浴びて輝き、遥か彼方には槍ヶ岳・穂高岳も望めた。いつまでも見ていたい景色だ。

今日は下山。朝食を済ませ、劔岳をバックに記念写真を撮り、ヘルメットを装着する。稜線から下り始めると、葱平のお花畑だ。青い空と巨岩をバックに、色とりどりの花々が斜面一面に日の光を浴びて輝いている。クルマユリ、シナノキンバイ、ミヤマキンポウゲ、ハクサンイチゲ、イワオウギ、ミヤマアズマギク、シシウドなどなど。立ち止まってしばし見入り、写真を撮る。

岩が多い急坂が続く。登りの登山者も増えてきた。避難小屋・水場で休憩をとり、水分を補給する。巨岩から流れ落ちる水が冷たくて美味しい。見上げると、杓子岳の鋭い岩峰が青空に映えて美しい。大雪溪が見えてきたが、なかなかとりつきに着かない。温暖化と猛暑で雪溪が小さくなっているらしい。やっととりつきに着き、アイゼンを装着して雪溪を下る。霧が漂い涼しい。岩の急坂よりずっと気持ちよく下れる。雪溪の下に着いた。いつもよりずっと短い。さらに続く雪溪には大きなクレバスが口を開け、ごうごうと雪解け水が流れている。タクシーの運転手の話では、夏の終わりには雪溪は消えるとか…。

仲間を待ち、白馬尻小屋跡で昼食を済ませ、林道を歩いて猿倉へ。全員無事下山、良かった。猿倉からタクシーで八方へ。アルカリ性の八方の湯で3日間の汗と汚れを洗い流し、特急バス、新幹線を乗り継いで帰った。



途中、仲間の靴底が剥がれるというアクデントもあったが、3日間とも天気にも恵まれて、花盛りの高山植物と素晴らしい展望と雪溪を満喫した白馬岳山行になった。

<閑話休題> 臨時役員会開催<8月3日(木)と24日(木)>

8月は、役員会も理事会も例年は休会です。しかし、今年は、9月2日(土)に、千葉県連主管で『関東ブロック役員交流会』が全国連盟事務所で開催されるため、その準備作業などで臨時役員会が2度開催されました。交流会の様子は、『9月理事会(9/21)』と『ちばニュース10月号』で報告の予定です。(編集子)

御嶽山～ロックガーデン

岳人あびこ 矢野朝水

2023 年 8 月 6 日（日）5:33 我孫子発。日暮里を経て 6:45 新宿発ホリディ快速おくたま 1 号に乗車。登山客が多い。青梅で 7:49 ホリディ快速おくたま 2 号に乗り換え、8:02 御嶽駅に到着する。バスで 8:20 滝本着。ケーブルカーに乗り 8:42 御嶽山駅に到着。台風 6 号が沖縄周辺に停滞しているが、快晴。 **奥多摩へ走る快速登山客**

御嶽山駅を出るとウグイスの声が響く。御嶽神社に向けて参道を進むと額アジサイが咲き残る。右手に日本武尊の東征の昔から生い茂っていたと言われる「神代ケヤキ」が聳える。幹の太さ 8.2 メートル。 **御嶽山夏うぐいすに迎へられ**

咲き残る額あぢさいや御嶽山

夏雲や樺大樹の仁王立ち



急な階段を登り、御嶽神社に参拝する。狛犬はオオカミ。迫力がある。長崎平和祈念像で有名な北村西望氏の作という。本殿の裏が御嶽山山頂。929 メートル。オムスビのような「奥の院」を望む。

狼の狛犬睨む夏の空

奥多摩や青葉若葉の山の波



5 年前の 11 月芳恵さんをリーダーに紅葉の中、日の出山→御嶽山→奥の院→御師の宿「宝寿閣」に一泊。栗とむかご飯を頂く。芳恵さんが生涯登山を宣言→大岳山→馬頭刈（まづかり）尾根を歩いたことを思い出す。

紅葉の御嶽めぐりし友偲ぶ

御嶽神社参拝後坂道を下ると 9:05 巨岩の「天狗岩」。岩の頂上に天狗が祀られている。鎖を伝い岩に登る。蜂の巣があり、蜂が飛んでいるので急ぎ下りる。

蜂飛ぶや天狗を祀る大岩に



天狗岩を下りると苔むした奇岩、怪石の間を清流が流れる。東京の奥入瀬と呼ばれる「ロックガーデン」。せせらぎの音を聞きながら木漏れ日の青葉若葉の森を進む。下界は炎熱というのに涼しい。10:55～11:30 清流脇の広場のベンチに腰かけて昼食。

苔むした奇岩を伝ふ清水かな
涼しさや瀬音やさしき若葉森

木漏れ日の映る清流苔の花
清流の若葉の森の昼餉かな



清流に沿って登ると右手に「綾広の滝」が落ちる。御嶽神社のみそぎの行事に使われるとか。神聖な場所だ。水神が祀られている。 水神を祀る瀑布や霊気満つ



雲が峰々を這い夕立がくるが、しばらくして止む。雨に濡れた若葉が日に映えてツヤツヤと光る。

奥多摩の峰を伝ひて夕立（ゆだち）くる

夕立（ゆうだち）に濡れて艶めく若葉かな

御嶽神社に戻り参道を下る。「ビジターセンター」で一休みした後、今回の山行の最大の目当て「レンゲショウマの群生地」に向かう。レンゲショウマの群生地は獣害を防ぐためネットで囲われている。狼が絶滅しなければ獣害も防げたのではないだろうか。

レンゲショウマの花期は8月の由だが、既にあちこちに咲いている。雨に濡れたレンゲショウマはひときわ可憐で気品がある。

蓮華升麻夕立（ゆだち）に濡れてうつむけり

涼しさや蓮華升麻の御嶽山



レンゲショウマの群生地を出ると関東平野を一望する。遥か新宿の高層ビルが見える。

風の香や関東平野一望す

新宿のビル街遥か雲の峰

一人乗りのリフトで山を下りる。ケーブルカーで滝本に下り、バスで 14:50 御嶽駅に到着。駅の近くの茅葺屋根の蕎麦屋で反省会をすることする。さるすべりが鮮やかだ。20 分待ちと言われたのが 50 分近く待たされる。

ビールで乾杯。待たされたが蕎麦はおいしかった。

奥多摩の蕎麦の老舗や百日紅

蕎麦啜り奥多摩の夏惜しみけり

食後、16:25 御嶽駅発、青梅で東京行き快速に乗り換え、東京駅を經由して 18:53 我孫子駅到着。

まずまずの天候に恵まれ、最大のお目当てのレンゲショウマを見ることが出来、満足のいく「ゆるゆる」山行だった。芳恵リーダーには種々気を使っただき感謝です。

ゆるゆると御嶽めぐりの涼しさよ

『17 文字』を考える余裕もなく歩いている者として、ただただ感心するばかりです。（編集子）

スイス紀行

松戸山の会 渡 邊 誠

海外に行ったことが無いと言うと「うそでしょー」という返事がいつも返ってくる。腰が軽いせいか、一ヶ所に腰を落ち着けてというのが苦手である。まして座席に十数時間などとんでもない。

しかし、「5つの名峰と4つの絶景列車で巡る…」というキャッチに誘われて7/10～17日までスイスアルプスのツアーに参加することとなった。

10:25AM成田発のチューリッヒ直行便。約15時間のフライトである。時差7時間のため18:35(現地時間)に到着したチューリッヒ空港は、まだ明るい。最も当地ではこの時季21時近くまで明るいのである。

バスでホテルのあるグリンデルヴァルトに向かう。

アイガーの麓にあるグリンデルヴァルトは、家々の窓という窓には花が植栽され、絵本から抜け出たような、メルヘンチックで美しい町である。

2日目の早朝、町に出てみる。前日は気づかなかったが、アイガーをはじめミッテルホルン、シュレックホルン等の山々が、手が届くほど近くで町を囲っている。北壁で有名なアイガーも見える角度によっては、雄大な山容の一部でしかないことを実感する。



グリンデルヴァルトから望むアイガー

今日は、ユングフラウヨッホからの展望とハイキングである。

山麓駅からアイガー北壁の真横を通るアイガー・エクスプレス(ロープウェイ)とユングフラウ鉄道を乗り継ぎ、3,463mのユングフラウヨッホへは1時間もかからずに登ってしまう。

残念ながらアイガーは、すぐ目の前のメンヒに隠れているが、視界いっぱいに広がるユングフラウをはじめ4,000m級の山々やアルプス最大・最長のアレッチ氷河には、悠久の時代を経た自然の重みさえ感じる。



ユングフラウとアレッチ氷河

この後、アイガーグレッチャーに戻りクライネシャイデックまで、2時間程度のハイキングである。

アイガーグレッチャー駅を一步出ると、メンヒを中央にアイガーとユングフ

ラウが衝立ごとく聳えている。

足元に目を落とすと、緑の丘陵のあちこちに黄色系の高山植物が咲き乱れている。コンダクターの方が花の名をいろいろ紹介してくれた。しかし、数が多すぎて記憶には残っていない。



ユングフラウ

アイガーの麓を緩やかに下っていくと、よく目にする北壁を眺めることができる。その昔、今井通子さんが登攀したルートの説明を聞きながら、彼女をモデルにした新田次郎氏の小説「銀嶺の人」を思い出す。

駅近のレストランで、チーズベースの昼食をとり、ホテルに戻る。

夜、雷の音に気がつきベランダに出てみると、外はどしゃ降りの雨である。明日はモンブランを見に行くというのに……。

3日目。外は薄曇りだが幸いにも一部青空が顔を覗かせている。

4時間バスに乗りシャモニーに着く。

エギュエユ・デュ・ミディ展望台へのロープウェイを予定していたが風のため運休。町を挟んで反対の山並みにあるブレヴァン展望台に急遽向かう。

ゴンドラとロープウェイを乗り継ぎ、展望台頂上は標高が2,525m。

ブレヴァン展望台ではシャモニーの街を眼下に眺め、行くことが出来なかったエギュエユ・デュ・ミディなどのモンブラン山群を正面に一望することができる。残念ながらモンブランは雲の中である。

夕食はホテル近くのレストランでチーズフォンデュ。まだ3日目のせいかわず美味しくいただく。しかし、この後、毎日がチーズ尽くしで閉口するとはこの時は、予想だにしていなかった。



メンヒ

しばらくするとユングフラウ鉄道の赤い列車が弧を描くように、今下ってきたアイガーグレッチャー駅へと登って行った。その情景は、よく観光パンフに載っている写真の一コマそのものである。



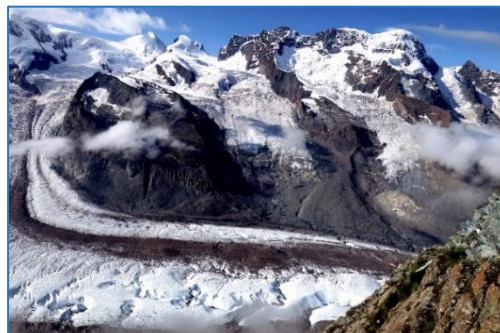
アイガー北壁



シャモニーを眼下にミディとグランドジョラス

4日目、マッターホルンを望むゴルナーグラート展望台に向かう。

モンテローザ、リスカム、カストール、ブライトホルンと 4,000m級の山々が青空を背景に氷河から立ち上がっている。しかし、残念だがマッターホルンは雲の中であった。



カストールとブライトホルン

この後、鉄道一駅分のハイキング。途中で山上湖に映る逆さマッターホルンが見られるかもと歩き始めるが、一面を覆うガスは濃くなるばかりであった。

しかし、登山道に目を移すと、色とりどりの高山植物。白、黄、赤、ピンク、オレンジ、青、紫・・・・。

ツェルマットのホテルに戻り、自由時間に町を散策。今日見た数々の高山植物が忘れられず、町の本屋で高山植物図鑑を購入。分かるはずのないドイツ語の図鑑だが、写真を見ているだけでも楽しい。



群生する高山亜麻「アルペンライン」

5日目。朝起きると昨日見られなかったマッターホルンの朝焼けをベランダから眺めることができた。

刻一刻と変わっていく山容。1時間にも及ぶ自然の織り成すドラマに感動。

今日は、ミシャベル連峰を眺めにサースフェーへ。そして、氷河鉄道をつかってサンモリッツまで行くことになる。5時間も乗車することになるがパノラマ車両からの望む山々や村々の家々は、絵本のページを捲るように美しい。

6日目。ベルニナ鉄道とゴンドラを使ってディアヴォレッツァ展望台に登る。ここでも氷河を隔て、主峰のビッツ・ベルニナを中心に 4,000 級の山々。今回のツアーで似たような山なみを見たのは何回目になるだろうか。



ベルニナ山群

しかし、各山々を確認しながら望むとそれぞれ自然の作り出した個性ある山容やスケールには感動せざるを得ない。

7日目。今日は日本への移動日。

チューリッヒを 13:00 に発つと 12 時間 45 分、時差 7 時間を経て、成田には

8日目の 8:45AM に到着した。

そしてその後、ターミナルのラーメン店に直行することとなった。

*「ちばニュース」への写真の投稿のつもりでした。しかし、旅行記も一緒に出すようにとのことで作文することとなりました。私事旅行のため、読み流していただければ幸いです。

<一方的なお願いに対して、快く引き受け投稿をしていただきました。多謝。(編集子)>

2023 事故防止・経験交流集会の案内

千葉県勤労者山岳連盟・教育遭難対策委員会

今年も事故の共有化・再発防止と各会交流を趣旨に開催します。

事故事例研究では、アウトドアショップ「ヨシキ&P2」スタッフの事故者ご本人から報告していただきます。

詳細は下記を参照下さい。

記

1) 主催 千葉県連盟・教育遭難対策委員会

2) 日時 **11月18日(土)10時～16時30分(9時30分より受付)**

3) 場所 **千葉県総合スポーツセンター** (予定)

千葉都市モノレール スポーツセンター駅下車

＊昨年と場所が異なります。

4) 内容

(1)事故報告

今年度発生 of 事故報告。

(2)事故事例研究

妙義山で転落しヘリで救助された事例報告。

「仲間が事故った！ そのときあなたは何をすべきなのか？」

(3) ファーストエイド講習

講師は国際看護師の資格のある労山会員。

(4)フリーディスカッション

いくつかのテーマから希望するテーマのグループに参加し、自由な意見交換による情報交流 (テーマは検討中)

5) 参加申込／締切

別途配布の参加申し込みフォームにて 会で一括申請してください。

教遭委員会 伊東：itou2385@yahoo.co.jp 090-1774-3384

参加者は 30 名程度 (スタッフ含む) を予定しており、申込多数の場合は、調整する事があります。



申込締切
11/3(金)

昨年の開催風景

岳人あびこ『やまなみ第19号』紹介

千葉県連会長 広木 国昭

岳人あびこより「やまなみ第19号」が届きましたので紹介します。

岳人あびこは、毎月発行の会報誌「やまたん」と、2年毎に山行記録をまとめた「やまなみ」を発行しています。「やまなみ」の掲載内容を紹介します。

- ・山行の通し番号順に、山名、山行報告と感想、写真（スナップが多い）、概念図、概要（ルート、月日、山域、山行形式・目的、費用、行動時間・ルート状況、参加者）
- ・2年間の山行一覧表（山名、山域、山行日、グレード、リーダー、参加者）
- ・活動の記録（2年間の定例集会、行事、教育研修）
- ・山行索引（No.、山名、山域、年月日、山行形式、グレード、リーダー、号No.）

これらの内容が、1996年の会発足記念山行である「第1座：会津朝日岳」から2023年の「第1246座：長瀬アルプス宝登山」までの通巻19号に掲載されています。

前会長の高橋芳恵さんは「やまなみ」について言っています。

これは、何もないところから会を設立された先輩たちの先見性と会継続にかけた熱意のすごさ、そしてそれを支える会員の運営への尽力と能力の高さによる成果と結果と言える。私たちの山旅は、企画・計画・実施・報告・記録・振り返りを私たち自らが行っています。巡り合った素晴らしい山々や山仲間の存在は、生きる上でどれほど貴重であるかを「やまなみ」は私たちに語りかけてくれています。

第19号の編集後記には、編集に携わったからこそ率直な感想があります。

この膨大な作業を次期以降の担当者が続けていくのは趣味の会としてあるべき事なのか…？ 更なる簡素化・合理化をみんなで考えていきましょう。

これは、今後の会・県連盟活動にも共通している事だと思います。

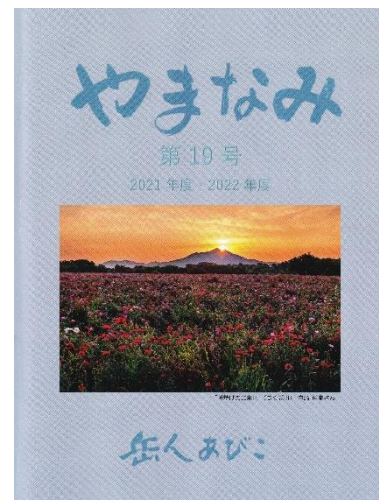
同様に、「2022年度3つの試み」が気になりました。

- ・どんぐり散歩（7回実施、日帰り、リーダー同じ）
- ・山食研究会（1日目・2日目、日帰り、リーダー同じ）
- ・ゆるゆる山行（第1回、日帰り）

現在、県連盟に限らず多くの山の会は、高齢化や若年層の組織離れ等深刻な問題に直面しています。この3つの試みがこれらの問題解決のヒントになるような気がします。

「岳人あびこ」の活動は、問題を先取りした取組みをしていると思います。

今後ともご協力をお願いします。



『第19号』はカラー印刷となりバージョンアップしています。岳人あびこの出版物は、写真が素晴らしいです。会員の作品応募で作った25周年記念カレンダーは素晴らしいです。全国連盟の労山カレンダーに連続入選しているプロ級の指導かと思います。

8 月理事会は休会となっていますので、理事会報告に代えて「委員会だより」をお送りします。

(文責：編集子)

委員会だより

<教育遭難対策委員会>

◆クライミング講習（入門編）は、残り 3 回で、今後の日程は次の通りです。

④9 月 2 日（土）、⑤10 月 1 日（日）リードクライミング訓練（グリーンアロー海浜幕張店）

⑥10 月 29 日（日）クライミング実地体験（天覧山） これで修了予定です。

◆2023 事故防止・経験交流集会開催案内・参加者募集（詳細は p. 12 参照）。

<自然保護委員会>

◆秋に『関東ブロック自然保護交流集会（神奈川県連主管）』が予定されています。

<ハイキング委員会>

◆9 月 6 日（水）18：00 より県連事務所にて委員会開催予定

◆11 月 23 日（木・勤労感謝の日）に、『房総の山復興プロジェクト』の呼びかけで、2019 年秋の台風被害に遭った登山道復旧作業状況視察ハイキングが予定されています。実施要綱が決まり次第、『ちばニュース』などで参加者を募集予定です。

<組織委員会>

◆各会の活動状況（特に会員の高齢化対策など）についてのアンケート調査を行いました。ご協力をいただきましてありがとうございました。

◆9 月 2 日（土）開催の『関東ブロック役員交流会（全国連事務所）』で、上記のアンケート結果などについて報告を予定しています。

<女性委員会>

◆ワンコイン講習会の年内の開催に向けて会場探しを継続中です。

会場が確保できた時点で、詳細を『ちばニュース』などで案内します。

テーマ：（仮）スロージョキング 講師：石田良恵先生

<海外委員会>

◆9 月 11 日（月）富士山登山訓練（ネパールトレッキング参加者対象）

◆ネパールトレッキングの参加者募集を 8 月 10 日（木）で締め切り、参加者は次の通りになりました（11 日間コースに 1 名追加）。

① 10 月 25 日（水）～11 月 4 日（土）<11 日間> 10 名（5 会）

② 10 月 25 日（水）～11 月 13 日（月）<20 日間> 7 名（4 会）

尚、①は当初の日程にヘリコプター利用のオプションコースに全員が変更しています。

<機関紙委員会>

◆8 月 2 日（水）19：00-20：15 に Zoom にて開催（新委員交えての初会合）

◆『ちばニュース 11 月号』を休刊とし、『11 月号&12 月号合併号』発行の予定です。

<理由>主たる編集者が、10 月 25 日（水）～11 月 13 日（月）にネパールトレッキングに参加のため編集体制が十分に取れないためです。

◆山行報告や紀行文、山関連情報などの投稿を随時お待ちしております。

2023 オンライン講座を終えて

オンライン講座実行委員会事務局 安彦秀夫

一昨年 2021 年、昨年 2022 年に引き続き、本年もオンライン講座を、講師の皆さんのご協力と多くの参加者の皆さんのお陰で 3 回を開催することができました。

<1> 講座実施状況

回	日程	タイトル	講師(敬称略)	参加者
1	6 月 22 日(木)	ヒマラヤトレッキングの魅力と注意点	中山岳史 ^{注1}	26 名 (11 会)
2	7 月 27 日(木)	現場から学ぶ高山病の予防と対応	中山岳史 ^{注1}	21 名 (10 会)
3	8 月 24 日(木)	ココヘリの紹介	清水良文 ^{注2}	19 名 (9 会)

<講師>注1： 中山岳史 氏（株式会社ワンダーズアドベンチャー）

注2： 清水良文 氏（AUTHENTIC JAPAN 株式会社）

※第4回『労山基金の基本的な考え方（9月28日）』は、講師の都合で中止にしました。

<2> 企画～準備～開催の流れ

◆当初4回の講座の実施を計画し、講師からも日程などの了解を得て『ちばニュース 6月号』に案内を掲載し、先ずは、第1回目の参加者を募集しました。その後、秋に計画している『ネパールトレッキング』に関連して、第2回目以降の順序を変更しました。結果的には、トレッキングに参加を希望している人にとって、ネパールトレッキングの魅力を充分に感じ、高所登山への不安の軽減にも繋がり、受講者からは大好評でした。更に、トレッキングに参加しない受講者からも、講師の人なりを知り、これなら安心してトレッキングの手配・ガイドをお願いできるね…という感想も寄せられたほどでした。

◆『労山基金』に関しての講座を、全国労山基金運営委員にお願いし、オリジナルのテキストの準備を進めていましたが、体調が思わしくなく、急遽中止にしました。

◆昨年に行った『ココヘリ』についてリクエストがあり、又、新しいサービスも始まったことより、AUTHENTIC JAPAN 株式会社のご協力でも今回も開催しました。

また、タイムリーに、全国機関誌『季刊：登山時報：2023年夏号』に、実際に起こった事故での『ココヘリによる搜索活動』の記事が掲載されたことや、会で利用していて正常に作動しなかった体験や労山基金との関係などで受講した人もいました。

☛第1回と第2回の資料（テキスト、Q&A、受講感想など）は、千葉県連のホームページに掲載されています。また、第3回の資料などは、9月中旬に掲載予定です。

県連活動予定表

9月		
日付	曜日	県連活動予定
1	金	
2	土	関東ブロック役員交流会(全国連事務所)
3	日	
4	月	
5	火	
6	水	ハイキング委員会18:00 (県連事務所)
7	木	
8	金	白露
9	土	
10	日	
11	月	富士山 (高所登山訓練)
12	火	
13	水	
14	木	役員会 (ZOOM) 13:00
15	金	
16	土	関東ブロック：セルフレスキュー講習会①
17	日	関東ブロック：セルフレスキュー講習会②
18	月	敬老の日
19	火	
20	水	
21	木	理事会
22	金	
23	土	秋分の日
24	日	
25	月	教育遭難対策委員会 (ZOOM)
26	火	
27	水	
28	木	
29	金	
30	土	

10月		
日付	曜日	県連活動予定
1	日	
2	月	
3	火	房総の山復興プロジェクト外会議(ZOOM)
4	水	
5	木	
6	金	
7	土	
8	日	寒露
9	月	スポーツの日
10	火	
11	水	
12	木	役員会 (ZOOM) 13:00
13	金	
14	土	
15	日	関東ブロック：救助技術交流会/榛名山ワナ谷
16	月	
17	火	
18	水	
19	木	理事会
20	金	
21	土	
22	日	
23	月	教育遭難対策委員会 (ZOOM)
24	火	霜降
25	水	ネパールトレッキング出発
26	木	①11/4帰国、②11/13帰国
27	金	
28	土	
29	日	
30	月	
31	火	

事故発生時の連絡先

各委員会は、25日までに予定を連絡ください。

●事故一報は事故発生後1ヶ月以内に！

●全国連盟と県連教育遭難対策委員会の両方にメールまたはファクスで！

全国連盟事務局

県連教育遭難委員会

メール： jwaf@jwaf.jp

メール： itou2385@yahoo.co.jp (伊東)

ファクス： 03-3235-4324

メールのみとします

連盟費の振込先はこちら！

郵便振替口座 00160-3-481509

(ゆうちょ銀行 〇一九店 口座番号0481509)

千葉県勤労者山岳連盟

発行者： 千葉県勤労者山岳連盟

発行責任者： 広木国昭

住所： 〒261-0013 千葉市花見川区幕張本郷 1-29-18 レジデンス幕張台 101号室

電話： 043-306-1190

E-mail： rousanchiba@grape.plala.or.jp

HP： <https://www.cwaf.jp>

事務所に常駐者はいません